

# 2020年度 教科課程

## 介護福祉士科

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	講義概要
人間と社会	自立人間の尊厳と	人間の尊厳と自立 (Human Dignity and Self-reliance)	必修	講義	30	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。「人間」の理解、介護場面における人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える介護職の必要性が理解できる。
	人間関係とコミュニケーション	人間関係学 (Human Relations)	〃	〃	30	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報収集の伝達に必要なコミュニケーション能力を養う。介護実践のために必要となる他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力などが理解できる。
	社会の理解	社会の理解 (Concept in Society and Social Security System)	〃	〃	60	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。高齢や障害のある状態の人を含めすべての人間が人間として生きることが保障されること構図が理解できる。また、それを実現するために社会福祉の法律等が整えられてきた歴史と現状を個人と社会の視点から理解できる。
	選択必修科目	家政学 (Home Economics)	〃	〃	30	家政学と介護福祉の関係の理解や家族関係や家庭経営を通しての家庭内で生じる諸問題について理解する。また家族関係、家庭経営等に関する基本的な知識と技術が習得できる。
		統計処理 (Statistics Processing)	〃	演習	30	社会生活における数字の活用として、統計の取り方やその他の情報処理技術を身につける。ワード、エクセル、パワーポイントの基礎が理解できる。
		社会学 (Sociology)	〃	講義	30	現代社会の基礎的問題を中心に人権や社会保障を重視する考え方の理解を深める。また現代日本の社会学の重要概念について理解できる。
		哲学 (Philosophy)	〃	〃	30	医療をめぐる現代のさまざまな課題について知り、それらに対する自己の認識や援助のあり方について理解する。また現代の医療、福祉の諸課題について理解し、自己認識や福祉観が持てるようになる。
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解A (Study of Development and Aging A)	〃	〃	30	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理について基礎的知識を身につける。人間の発達と老化を理解して、高齢者の気持ちを踏まえた介護が実践できる。また老化と発達の根拠に気づき、利用者の社会参加や自己実現を目指す活動に関しての介護が実践できるようになる。
		発達と老化の理解B (Study of Development and Aging B)	〃	〃	30	発達の観点からの老化に関する身体機能の変化の特徴に関する基本的知識を習得する。高齢者の疾患について知識を持ち、高齢者の疾患について知識を持ち、介護福祉士としてどのように対処すればよいか判断できる。また保健・医療・福祉の専門職の一人として連携と協力できる知識が理解できる。
	認知症の理解	認知症の理解A (Study of Dementia A)	〃	〃	30	認知症に関する基本的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。認知症に関する基本的な知識を習得し、その原因となる主な病気や認知症の特徴的な真理などが理解できる。
		認知症の理解B (Study of Dementia B)	〃	〃	30	認知症に関する理解と本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。認知症の人とその家族への配慮やその家族を支える地域との連携について理解できる。
	障害の理解	障害の理解A (Study of Disorder A)	〃	〃	30	障害のある人の心理や身体機能に関する基本的知識を習得する。障害ごとの心理的・医学的理解と生活上の問題点について理解できる。
		障害の理解B (Study of Disorder B)	〃	〃	30	障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。障害のある人に対する介護の視点や家族支援、連携と協働について理解できる。
	こころとからだ	こころとからだのしくみA (Concepts of Human Mind and Body in Welfare A)	〃	〃	60	介護職として必要な知識である人体の構造や機能及び心理的側面への配慮について理解する。こころのしくみ、からだのしくみについての基本的知識を習得し、死にゆく人のこころとからだのしくみや「死」に対するこころの変化などについて理解できる。
		こころとからだのしくみB (Concepts of Human Mind and Body in Welfare B)	〃	〃	60	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への配慮点について学習する。利用者の生活・自立支援に必要な介護実践に直接関連する基礎的知識、機能低下や障害が及ぼす影響について理解できる。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	講義概要			
介護	介護の 基本	介護の基本A (Basics of Nursing CareA)	必修	講義	90	「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。また、介護における安全やチームケア等について理解する。介護の倫理に基づき、利用者に最も適した方法・手段を習得できる。			
		介護の基本B (Basics of Nursing CareB)	〃	〃	90	介護福祉士誕生の社会的背景や社会福祉士及び介護福祉士法の改正による介護福祉士の定義の変更を学び、専門職としての社会的役割を理解していく。介護分野の基礎知識を取得し、専門職としての責任・倫理について理解できる。			
	ケー ス 技 術	コミュニケーション技術A (Communication Skills A)	〃	〃	30	文章(記録・報告書など)を通じて介護実践に必要なとされる情報を関係者に伝達する技術を学ぶ。介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションが習得できる。			
		コミュニケーション技術B (Communication Skills B)	〃	〃	30	利用者・家族・他職種とのコミュニケーション技法について学ぶ。利用者・家族・他職種とのコミュニケーション技法が習得できる。			
	生活 支 援 技 術	生活支援技術A (Life Support Skills A)	〃	演習	120	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。介護技術の基本をしっかりと習得できる。また技術の根拠を自身で考えられるようになる。			
		生活支援技術B (Life Support Skills B)	〃	講義	90	形態別の特徴を理解し、それに応じた介護技術の根拠を学ぶ。形態別の特徴を理解し、それに応じた技術が習得できる。			
		生活支援技術C (Life Support Skills C)	〃	〃	30	介護福祉を中心とした家庭生活の基本的概論を習得し、管理・運営する能力を養う。家庭生活と住居生活の意義を理解させ、管理・運営する能力が習得できる。			
		生活支援技術D (Life Support Skills D)	〃	演習	60	レクリエーションを通して、その人の潜在能力を引き出し、生活支援につなげる方法を学ぶ。計画の立案・援助者の心得などの技術を、演習により様々な状況や年齢層に対応できる技術が習得できる。			
	介護 過 程	介護過程Ⅰ (Process of Nursing Care I)	〃	〃	30	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。また介護過程は個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することであるということが体系的に理解できる。			
		介護過程Ⅱ (Process of Nursing Care II)	〃	〃	60	介護の実践過程を構成する要素の特性や活用方法を学ぶ。介護サービスの利用者が生活する環境を考慮し、その時、その場で最善の支援ができるよう、既存サービスや社会資源を活用した介護過程を展開できるようにする。			
		介護過程Ⅲ (Process of Nursing Care III)	〃	〃	60	介護過程において介護福祉士として求められる専門性を自覚するとともに、実習で展開した介護過程に考察を加えることで客観的な振り返りを行う。また介護実習の総まとめとして実習で展開した介護過程の展開を文章化し客観的な振り返りができるようにする。			
	介護 総 合 演 習	介護総合演習Ⅰ (Nursing Care Integrated Seminar I)	〃	講義	60	専門科目で得た基本的な知識・技術を実習を通して実践するための具体的な方法を学ぶ。またさまざまな生活ニーズを持った利用者に対し、多様なサービス提供の場を実践できるように応用力を養う。居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像を整理・理解でき、介護福祉士としての役割を明確化できる。また他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーが習得できる。			
		介護総合演習Ⅱ (Nursing Care Integrated Seminar II)	〃	講義	60	実習施設の役割と機能、施設利用者とその家族の生活ニーズを理解する。利用者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立に向けた多職種協働の意義と役割を理解する。実習施設の概要と利用者の生活ニーズが整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。また個別ケアや多様なサービス形態のあり方なども理解できる。			
	介護 実 習	介護実習Ⅰ－① (Nursing Care Practice I－①)	〃	実習	37	社会福祉現場における専門職としての専門知識や技術を具体的な経験を通して、実践の応用能力等が習得できる。また実習指導を通して、コミュニケーション力などの社会人基礎力が習得できる。			
		介護実習Ⅰ－② (Nursing Care Practice I－②)	〃	〃	112				
		介護実習Ⅰ－③ (Nursing Care Practice I－③)	〃	〃	150				
		介護実習Ⅱ (Nursing Care Practice II)	〃	〃	165				
	医 療 的 ケ ア	医 療 的 ケ ア	医 療 的 ケ ア		医療的ケア (Medical Care)	〃	講義	51	介護現場における医療的ケアの必要性を理解し、安全に実施できる知識、技術を養う。医療的ケアに関する制度を理解し、医療職との連携のもとで個人の尊厳を考慮しつつ安全・適切に実施できる技術が習得できる。
	必 修		講読演習 (Seminar on Reading)	〃	演習	60	介護に関わる職業・職種・資格等の内容の理解を図り、進路目標や就職意識を高めるため、文献や事例、視聴覚教材等を通じて、専門職として必要な基本的資質を習得できる。		
			英会話 (English Conversation)	〃	〃	30	生きた英会話力を養い、併せて国際社会に対応できる感覚を身につける。またグローバル化している現代社会において、福祉現場や日常生活におけるコミュニケーション能力が習得できる。		